

## 会 議 録

会議の名称	平成27年度 第5回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会
開催日時	平成28年 2月 29日 (月) (午前・午後) 10時 開会 (午前・午後) 正午 閉会
開催場所	茨木市役所 本館6階 第2会議室
議 長	中森 孝文 氏 (龍谷大学 政策学部 教授)
出 席 者	中森孝文氏 (龍谷大学 政策学部)、野口義文氏(立命館大学 研究部・産学官 連携戦略本部)、小牧義昭 (北おおさか信用金庫)、近藤正典氏 (中小企業診断士) 小林豊和氏 (茨木商工会議所)、前田幸子氏 (商業事業者)、 西村庄司氏 (農業事業者)、大川智恵子氏 (公募市民)、山田理香氏 (公募市民) (9人)
欠 席 者	高石秀之氏 (工業事業者)
事務局職員	徳永商工労政課長、吉田商工労政課課長代理、武部商工労政課職員 株式会社 関西計画技術研究所 北川 (4人)
議題(案件)	(1) パブリックコメントの状況について (2) 産業振興アクションプランの決定案について (3) 次年度の取り組みについて
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 産業振興アクションプラン【改定版】(案)へのパブリックコメントについて</li> <li>・資料2 茨木市産業振興アクションプラン 平成28～32年度(案)</li> <li>・資料3 茨木市産業振興アクションプラン 平成28～32年度 概要版(案)</li> <li>・資料4 次年度の取組① (仮)子育て世代向け起業入門セミナー</li> <li>・資料5 次年度の取組② (仮)産学交流サロンの開設</li> <li>・資料6 公募型補助事業の審査について</li> <li>・平成28年度 産学連携スタートアップ支援事業補助金 募集要領</li> </ul>

## 議事の経過

### 1 開会

委員長：（開会のあいさつ）

### 2 パブリックコメントの状況について

事務局：（資料1 説明）

#### <質疑・意見等>

A委員：立命館大学についてのパブリックコメントがありますが、（大阪いばらきキャンパスは、昨年4月に開学したところであり）、地域に定着するには時間もかかると考えています。対応には、そういった旨を記載しても良いと思います。

また、「開校」ではなく「開学」が適切です。

「市の考え方」の欄に、「検討します」「～の予定です」といった表現が見られますが、可能な限り調整を進めて、不確定要素はできるだけ排除するかたちの表現にすることが望ましいと思います。

B委員：JR茨木駅を見ても、学生の方を多く見かけるようになりました。

C委員：学生が増えていても、そのまま電車に乗ってしまっているのは、まちの活性化にはつながりません。学生をうまく巻き込むようなまちづくりの取組が必要です。

委員長：皆さんのご意見も参考に、パブリックコメントへの対応を進めてください。

### 3 産業振興アクションプランの決定案について

事務局：（資料2 説明）

#### <質疑・意見等>

D委員：ロードマップの色付けにあわせて、施策の一覧においても「連携」に関係する取組は「重点施策3」と追加しても良いのでは。

A委員：「概要版」があるので、本編は「詳細版」としては。

概要版を見て、詳細版を読んでもらえるような仕掛けが必要です。概要版に「詳細版の何ページに掲載されているか」がわかるような記載を追加するなど。

また、「概要版」は、読みやすく理解しやすいものであることが望ましいので、目次を掲載して「何が書いてあるのか」をわかりやすくする、各重点施策の説明箇所に具体例を追加するなどしてはどうでしょうか。

本編の「アクションプラン改定の背景」に関する記載について、「前期アクションプランの策定から5年経過したから」というよりは、「前期プランを更に高め、レベルアップするもの」として改定理由を記載する方が「発展的」というイメージが沸き、良いと思います。

E委員：どこを見れば良いかがわかりにくいので、市民や事業者が読みこなせるように、わかりやすくなれば良いと思います。

F委員：具体的な取組や例が掲載されていれば良いと思います。事業者は自分に関連のある部分を読むので、身近な取組が紹介されていたり、新たな取組のイメージが湧いたりすることで、何かアクションを起こすきっかけになるかもしれません。

G委員：（前回会議の資料と比べると）表題から「【後期】」がなくなって、計画期間の年度表記になっていますが、本文中では「前期（＝現行プラン）」「後期（＝改定プラン）」となっているので、表題も「【後期】」になっていても良い気がします。

H委員：「茨木市をどういうまちにしていきたいのか」という、大きな目標がわかるものはないのでしょうか。

C委員：（これまでの議論から）「概要版」に多くを書きすぎているのかもしれないですね。第5章の部分に、産業振興アクションプラン推進委員会について触れられています。この委員会では、事業者や市民の委員の方もいらっしゃるのので、そういった方々の視点も含まれるということを追加していただけたら、と思います。

F委員：「わかりやすく」ということ言えば、たとえば、ホームページに掲載し、興味のある分野をクリックすると更に深く（詳細に）見られるようになる、といった手法も有効ではないでしょうか。

A委員：産業振興ビジョンで示されている「Something New」というフレーズ（考え方）は、とても良いと思います。詳細版の中でも数ヶ所に掲載されていますが、もっと全面的に打ち出しても良いのではないのでしょうか。

H委員：「（さっき自分が言った）大きな目標」というのは、「Something New」のことですね。

委員長：これまでの議論を総括すると、今までの経緯と改定するアクションプランの内容を、分かりやすく（シンプルに）示すものが必要なかもしれないですね。

#### 4 次年度の取組について

事務局：（資料4～資料6 説明）

<質疑・意見等>

（仮）子育て世代向け起業入門セミナーについて

A委員：入門セミナーと既存メニューの間に“模擬実施”のステップがあれば、なお良いと思いました。入門セミナーから実際に起業するまでにはギャップがあると思いますので、そのギャップを埋める意味でも重要だと思います。

G委員：自分の周りを見ても、需要はあると感じます。ただ、実際に事業をする際には、場所（賃借料の負担）がネックになるという話は聞きます。

最初から本格的にお店を構えて賃借料を負担するのは大変なので、業種によっては出張（訪問）の形式をとったりする人もいます。

「子育て世代」ということであれば、同様の世代が集まる場所やイベントを活用するなど、模擬実施ができる機会が工夫できれば良いと思います。

A委員：資料に「先輩起業家との交流」とありますが、そういった人たちが起業希望者をアシストする“メンター制度”のようなものがあったら良いですね。

（仮）産学交流サロンについて

A委員：事業者がより気軽に相談できるように（大学側の）担当制を取り入れるなど、なにか工夫があった方が良いと思います。

B委員：（始めてから）2～3年が経過した後も、人が活発に出入りするよう、継続につながる仕組みができれば良いと思います。

A委員：他での取組を見ても、多少でも飲食を交えると気軽に会話ができるので、より活発に交流が進むことが多いです。

C委員：セミナーの講師として「産学連携経験事業者」とありますが、他にも（商工会議所や金融機関など）事業者とのつながりのある機関があるので、そういったところと連携を図りながら進められればと思います。

D委員：実施にあたっては、事業者だけでなく大学側に対しても、産学連携スタートアップ支援事業補助制度の周知を図ることができれば、より良いと思います。

## 5 その他

提案公募型補助事業の公募開始について

事務局：産学連携スタートアップ支援事業

3月1日～4月22日まで

産業活性化プロジェクト促進事業、地域魅力アップ創出育成事業

3月1日～3月31日まで

事務局：それでは、以上を持ちまして委員会を閉会させていただきます。

ありがとうございました。